

BAJ スリランカ事業

スリランカの概況

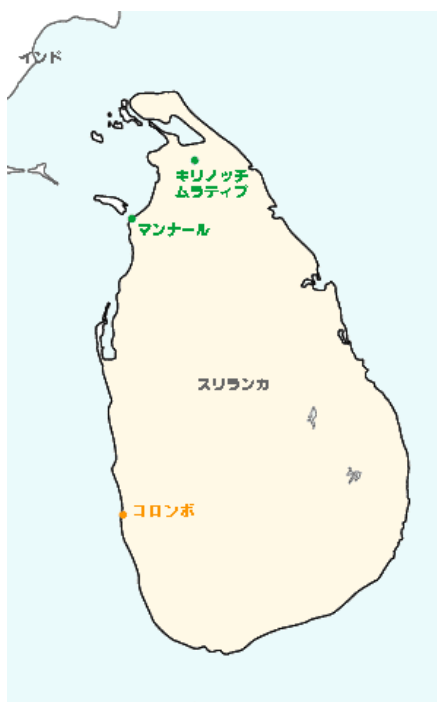


インド洋に浮かぶ島国スリランカは、赤道と北回帰線にはさまれた熱帯の島国です。総面積は 6 万 5607km² で、北海道を一回り小さくしたほどの島に 2022 万人(2008 年)の人々が生活しています。島は変化に富んだ地形で、100 キロメートルも続く砂浜の海岸線や、多くの野生動物が生息するジャングル、標高 1000 メートルを越す山々など多様な様相をしています。

民族構成は、約 73%の仏教徒のシンハラ人、約 18%のタミル人、約 8%のイスラム教徒ムーア人の人たちです。宗教では、他にキリスト教徒やヒンドゥ教徒もいて複雑です。

スリランカは、歴代の王朝がありました。16 世紀にポルトガル人がやってきて植民地としてから、オランダ、イギリスの支配も受けてきました。1948 年 2 月に念願の独立を果たしました。

スリランカから 2007 年に撤退しました



スリランカでは、多数を占めるシンハラ人が政権にあつて「シンハラ優遇政策」をとつたため、ヒンドゥ教徒の多いタミル人との対立が次第に顕在化し、20 年間にわたつて政府と、タミル人の組織である LTTE(タミル・イーラム解放の虎)との内戦状態が続きました。2002 年、両者による停戦合意が成立し、和平合意への話し合いも始まつたため、BAJ は 2003 年 1 月から、LTTE の本拠地であるキリノッチをはじめ、ワウニア、マンナール、コロombo に事務所を設置して、復興支援の活動を開始しました。

活動内容は、井戸やトイレの建設、学校校舎や公民館の修復、帰還した国内避難民の職業訓練所の建設と運営などです。また 2004 年 12 月のスマトラ島沖大地震による沿岸部の津波被災に際しては、緊急救援活動も実施しました。

その後、スリランカ政府は LTTE との和平合意に失敗し、内戦が再燃したため、研修生や職員の安全確保という観点から、誠に残念でしたが 2007 年 7 月末で駐在事務所を閉じ、それぞれの

地域行政機関や村落開発委員会などに施設や資機材を引渡して事業を終了しています。

スリランカでの復興支援活動

BAJ は LTTE 支配地域に日本の NGO として初めて入つた団体でした。活動を進める上で配慮したことは、対立する政府と LTTE に対する活動のバランスでした。一方だけの地域の支援をすることを避けるため、BAJ にとっては大きな負担となりましたが、政府支配地域と LTTE が掌握する地域の双方で活動を実施しました。



復興支援の事業で主な対象としたのは、20年間も続いた内戦のため、国内避難民のなかできちんとした教育を受ける機会を失った青年たちでした。各地域に職業訓練センターを建設し、大工・左官、エンジン修理など雇用に有利な技術訓練をおこない、卒業証書はスリランカ国内で正式に通用するものになりました。

BAJでは、LTTEの支配地域であるキリノッチ、LTTEと政府の両者が共存するワウニア、マンナールを拠点に復興支援活動を実施し、全体のとりまとめをコロンボ事務所がおこないました。

各地域での活動の概要

ワウニアでの活動

スリランカの北部地域に位置し、シンハラ人とタミル人が共存するワウニア県で、BAJは校舎再建計画のある2箇村で住民説明会を開いて事業への参加を求めました。損壊した学校校舎について、スリランカ政府の基準に従った修復・再建をおこない、半壊した公民館の修復再建を2003年10月までに完成させました。2004年には、完成した公民館を使って、国内避難民・帰還民の支援事業として、裁縫訓練コース、生計向上コース、大工・左官コースを実施し、男女合わせて67名が受講しました。2005年にはもう1棟の公民館を完成し、女性を対象に計10回の生計向上コースを実施し、延べ286名が受講しました。



アヌラーダプラはタミル人が多数を占める北部のなかでシンハラ人居住地域であったため、内戦中はLTTEの襲撃を受けた地域です。2005年、BAJは被災民の自立促進と再定住支援として県内のシンハラ人居住地域とモスリム人居住地域の2つの村に公民館と井戸、トイレを設置し、公民館ではそれぞれ女性を対象に生活向上コースと裁縫コースを、さらに男性対象に左官コースを実施し、BAJの事業は2005年末で終了しました。2006年1月には、地元住民と話し合いを重ねた結果、それぞれ施設等を適切な地元機関に引渡しをおこないました。

キリノッチでの活動

LTTEの本拠地であるキリノッチでは、停戦後急速に国内避難民の帰還が進み、破壊された建物も少しずつ修復されて活気を取り戻してきましたが、電力の供給が不足していることが復興の障害でした。LTTE支配地域で活動しようとする海外NGOは、必ず地元NGOへの業務委託を求められましたが、事業実施能力が不十分なNGOが多いため、BAJはLTTEやタミル復興機構(TRO)と何度も話し合いをしながら事業を進めました。

BAJは、キリノッチ中心部に近い場所にキリノッチ職業訓練センターを建設し運営の準備を進めましたが、地元NGOと共同運営で行うことになり、開講までに協議に多くの時間を割かなければなりません。実際にコースが始まったのは2003年11月に入ってからで、第1期は大工コース、左官コース計25名が受講しました。他に井戸、トイ



レ、公民館など 56 か所の基礎インフラ整備を行いました。また、多目的公民館1棟もオン・ザ・ジョブ・トレーニング(OJT)方式で完成させました。2 期目の 2004 年 4 月からはトラクター整備コースと家具製作コースを 2 期にわたって実施し、延べ 92 名が受講しました。さらに女性対象の裁縫訓練コースも 2 期にわたって実施し、62 名が受講しました。また修了生に対しては実地訓練と収益を結びつけた OJT を実施して収入向上を図りました。BAJ は政府職業教育委員会と交渉し、正式な職業訓練機関として承認を受け、修了生の雇用の拡大を進めました。

2004 年 12 月に起きたスマトラ沖大地震によるインド洋大津波で、スリランカ沿岸部も大きな被害を受けました。BAJ は緊急救援募金をおこなうとともに、北部沿岸部のムラティブの漁民を対象に、破損した漁船の船外機修理と、船外機の維持管理能力強化のための説明会や個別指導を実施しました。また、緊急救援物資や防水シートなどの配布をおこなったほか、簡易避難設備 4 棟などを建設しました。

BAJ はキリノッチ県での活動を 2005 年末で終了し、2006 年 1 月には施設を地元へ引渡しました。

マンナールでの活動



BAJ は、元小学校だった建物を修復してマンナール職業訓練センターを開設し、6 月から大工コース、左官コースを実施し、10 月からは政府の高等教育省職業訓練局と協力してトラクター整備コースを実施し、修了生には政府発行の修了証書が発行されました。2003 年は延べ 43 名、2004 年は 59 名、2005 年には金属加工、屋内配線など新たな内容も加えて 158 名が訓練を受けましたが、2006 年は治安の悪化により 61 名の訓練を終えて 9 月に全てのコースを終了し、現地政府機関に技術訓練を継続することを条件に引渡しを行いました。その後は 2007 年 4 月まで民間修理工場に訓練生を派遣して OJT による技術訓練を実施しました。

圧倒的な技術者と農業機械の不足に対応するため、レンタルショップの開設を地元協同組合と共同で運営することにし、ナナタン、マンタイ、アリプの 3 か所でレンタル事業を開始しました。また、BAJ の職業訓練修了生を派遣して船外機やトラクターエンジンの無料点検などをおこないました。しかし 2007 年 7 月以降は、治安の悪化などの理由で、地元機関へ引渡しをおこないました。

アンパーラでの活動

スリランカ東部沿岸地域のアンパーラは、2004 年 12 月末に起きたスマトラ沖大地震・インド洋大津波被害により、特に大きな被害を受けた地域です。BAJ は被災直後から緊急救援として生活物資の配布を行ない、避難民キャンプに仮設住宅やトイレ、井戸などを整備しました。その後被災したムスリム系の女性を対象に生計向上コースとして、ろうそく、石けん、線香、チョーク、ビスケットなどの製造技術を指導し、市場調査やマネジメントなどの講習をおこなって自主的に活動するための事務所なども整備し、2006 年 6 月に女性たちへ活動を引渡しました。

